

令和8年第1回燕市議会定例会  
一般質問日程表

質 問 日		質 問 者			質 問 方 式	
					一括質問	一問一答
3月4日(水)	午後	1	高橋 妙子 議員		○	
		2	近藤 隆行 議員		○	
		3	大島 靖浩 議員		○	
5日(木)	午前	4	藤井 秀人 議員		○	
		5	タナカ・キン 議員		○	
	午後	6	齋藤 和也 議員		○	
		7	田澤 信行 議員		○	
		8	齋藤 信行 議員	○		
9日(月)	午前	9	土田 昇 議員		○	
		10	小林 由明 議員		○	
	午後	11	長井由喜雄 議員		○	
		12	渡邊 広宣 議員		○	
		13	田中 淑子 議員		○	
10日(火)	午前	14	岡山 秀義 議員		○	
		15	稲村 隆行 議員		○	
	午後	16	宮路 敏裕 議員		○	
		17	山崎 光男 議員		○	

令和8年第1回燕市議会定例会「一般質問表」

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
1	高橋 妙子 (一問一答方式)	1. 少子化社会における人手不足問題と地域経済活性化について	(1) 生産年齢人口減少における人手不足について	① 燕市の生産年齢人口の現状と今後の予測について伺います。 ② 生産年齢人口減少において人材確保が困難になってきている現状への認識を伺います。
			(2) 生活維持サービスの労働力不足について	① 日常生活を支える特定の職種における労働力の需要に対し、供給がどれだけ満たされているかの割合を示す生活維持サービス充足率ですが、民間調べによると2040年に生活維持サービスの労働力の充足率が最も低くなると予想されるのは新潟県であり、58.0%という数字が出ています。この現状をどのように捉えられるか伺います。
			(3) 少子化社会における稼ぐ燕市の経済活性化について	近年の物価高騰によって、原材料費やエネルギー価格が上昇し、中小企業・小規模事業者の経営を圧迫しており、燕市においても人手不足の深刻化も課題となっている現状を踏まえて質問させていただきます。 ① 賃上げを行った企業の割合(製造業、非製造業)を伺います。 ② 企業が賃上げを行い、持続可能な経営に取り組めるよう、何が重要か、市として出来ることは何か伺います。
			(4) 外国人労働者について	① 市内の外国人労働者の就労の現状を伺います。 ② 燕市外国人材受入対策プロジェクトチームにおける取り組みの進捗状況を伺います。 ③ 2027年度から新たに始まる「育成就労制度」ですが、これまでの技能実習制度が「国際貢献」を目的としていたのに対して、育成就労制度では、原則3年間の就労を通じて、特定技能1号レベルの技能を習得することを目指し、人手不足が深刻な特定産業分野において、必要な人材を確保することを明確な目的としています。育成就労制度において、今後より多くの外国人労働者が増えていくことが予想され、外国人労働者の雇用の在り方も変わっていくと思いますが、市の認識を伺います。

(次ページへ続く)

発言 の 順序	発 言 す る 員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小 項 目)
1	高橋 妙子 (一問一 答方式)	2. 学校給食 費の抜本 的な負担 軽減(い わゆる給 食無償 化)につ いて	(1) 学校給食 費の抜本 的な負担 軽減(い わゆる給 食無償 化)につ いて	<p>学校給食費の抜本的な負担軽減(いわゆる給食無償化)について国から方針が示され、各自治体において、現在検討が進められていることを踏まえ質問させていただきます。</p> <p>①市の一般財源から給食費全額を負担する場合の財政負担の試算を伺います。</p> <p>②燕市の実情及び物価上昇の状況把握を踏まえた上で、給食の質と量を十分に確保できるか伺います。</p> <p>③いわゆる給食無償化に関して、小学校においては令和8年度は保護者負担を求めない形となっているが、それ以降はどのようにしていくか検討されていることを伺います。</p>
2	近藤 隆行 (一問一 答方式)	1. 地域のつ ながりに ついて	(1) 「こども まんなか 応援サポ ーター」 宣言につ いて	<p>①市は昨年11月に「こどもまんなか応援サポーター」を宣言した。これはこども家庭庁が推進する「こどもまんなか」の趣旨に賛同し、地域、団体、企業を巻き込み、こどもまんなか社会の実現に向けて活動していくとの宣言であるが、市として今後どのような活動を考えているのか伺う。</p> <p>②こどもまんなか応援サポーター宣言をしている他の自治体では、「こどもや若者の笑顔になる回数が増えている未来を目指す」などの目標を定め、「こどもまんなか」を展開している。燕市は「日本一輝いているまち」の実現を目指しているので、「こどもや若者の笑顔が日本一輝いている」などの目標や指針などがあると、より取組が明確になり活性化にもつながると考えるが、市の見解を伺う。</p> <p>③「こども・若者の意見を聴き政策に生かすとともに、これまで以上に意見を募集するための仕組みづくりを検討する」と、市の発表があった。気軽に意見が言いやすく、幅広く募集する仕組みとして、学校で使用している1人1台端末や、SNSの活用などがある。また、こども会議のような対話や議論を深めながら意見を集約しつつ、その過程においてこどもの成長を促す方法もある。これらの仕組みが効果的と考えるが、市の見解を伺う。</p> <p>④市内の小中学校では、学校行事を通じて地域との交流を深めている。このような地域交流は、こどもの社会性やコミュニケーション能力の向上などはもちろん、地域の活力の向上や、防犯性の強化にもつながると考えられる。こどもまんなか応援サポーターを宣言した市として、このような学校における地域交流も、こども達が主体性を持って企画された行事やイベントが増えると、こども達の成長はもちろん、地域の活性化にもつながると考えるが、市の見解を伺う。</p>

(次ページへ続く)

発言 の 順序	発 言 す る 員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小 項 目)
2	近藤 隆行 (一問一 答方式)	1. 地域のつ ながりに ついて	(2) 地域交流 について	①地域において、人とのつながりや交流を促進する組織として、自治会、まちづくり協議会が挙げられる。市がこれらの組織に実施している支援を伺う。 ②各地域の自治会、まちづくり協議会では様々な取り組みが行われているが、好事例等はどのように他の地域と共有しているのか伺う。 ③地域の活性化を支援する自治体の施策として、愛知県高浜市では、まちづくり協議会特派員制度（現在は地域担当職員制度）を実施しており、地域の活性化はもちろん、職員の成長、行政と地域の信頼性向上などにもつながっている。また、地域おこし協力隊によるサポート体制の構築など、地域の活性化のためには、これらの取組も効果的と考えるが、市の見解を伺う。
3	大島 靖浩 (一問一 答方式)	1. 燕市にお ける人口 減少と少 子高齢化 による担 い手不足 について	(1) 人口減少 問題	①本市における今後の人口推計の見通しと対策について伺う。 ②若年層の転出理由について、市はどのような分析を行い、どの要因を最も重視しているのか伺う。 ③本市の人口戦略において、今後最も重点を置く年代層はどこか。その理由及び優先すべき施策は何か伺う。 ④本市が主導している女性キャリア支援・リーダー育成の取り組みについて伺う。 ⑤若者の地元定着を促すため、教育・就労の各分野でのこれまでのトピックとなるような取り組みはどのようなものがあったか伺う。
			(2) ものづく り産業の 持続性と 技術継承 の危機	①市は、技術継承の現状をどのように把握しているのか伺う。 ②技能者育成や後継者支援について、市独自の支援策を拡充する考えはあるか伺う。 ③若者がものづくり産業に関心を持ち、就職につながるような教育・体験機会の創出を、教育委員会や産業界とどのように連携して進めるのか伺う。 ④産学官連携の強化として、長岡技術科学大学との連携について、これまでの実績を伺う。
			(3) 子育て・ 教育支援 の強化と 市外流出 の抑制	①子育て支援策の利用率と効果測定はどう行っているのか伺う。 ②子育て世代の教育支援等のニーズの分析と改善策について伺う。
			(4) 若者の地 元離れと 地域への 関係人口 づくり	①若者会議の成果を市政にどう反映しているのか伺う。 ②関係人口を就労・定住につなげる具体策について伺う。

発言 の 順序	発 言 す 議 員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 ( 小 項 目 )
4	藤井 秀人 (一問一 答方式)	1. 市内にある表示看板について	(1) 市内にある表示看板について	<p>市内にある表示看板も設置してから年数が経過して見えにくくなっている箇所が目につく。表示看板は市外から来られた方々には重要なツールだと考えるが、現状では逆にだらしのないような印象を与えてしまっている箇所もある。その中で気になる箇所を小項目にて質問させていただく。</p> <p>①町内の入り口に設置してある表示看板が全く見えないままの状態になっている所が目につくが、今後の対応はどのようにしていくのか伺う。</p> <p>②大河津分水の堤防沿いにある観光案内の看板も文字が薄くなり、読みにくくなっている。対応はどのようにしていくのか伺う。</p> <p>③大河津分水の堤防沿いにある国定公園として明示してある構造物も、文字が薄れ板がはがれかかっている。改善等は考えられているのか伺う。</p>
		2. 除雪対応について	(1) 除雪対応について	<p>①市営駐車場は市内に何箇所あり、除雪はどのようにしているのか伺う。</p> <p>②国道、市道にある信号交差点の通学道路の歩道除雪は、どのような対応をしているのか伺う。</p> <p>③降雪が続き、排雪しなければいけない状況もあるが、どのような時点で対応を判断しているのか伺う。</p> <p>④段々雪が消え、除雪によって破損した箇所が目につくようになってきたが、今後の修繕はどのようにしていくのか伺う。</p>
5	タナカ・ キン (一問一 答方式)	1. 公共施設のスロープについて	(1) 吉田産業会館玄関前のスロープについて	<p>①吉田産業会館の玄関に向かって真ん中は階段で、左側はスロープになっている。このスロープは、足腰が弱って階段の上り下りが不安な高齢者や車いすの人が利用している。車いすでの上り下りは、後ろで押す人もいます。しかし、雨や雪の降っている時は、車いすに乗る人も押す人も傘を差すことが出来ません。スロープがない公共施設は、バリアフリーという考え方がなかった時代の建物だと思います。これから造られる施設なら、必ずスロープの上に屋根をつくるはずで、社会の変化に合わせ、弱い立場の人に手を差し伸べる。燕市には、こういう思いやりのある市になっていただきたい。気づいた時に、直せるものなら改善していくべきと考えますが伺います。</p>

(次ページへ続く)

発言 の 順序	発 言 す る 議 員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 ( 小 項 目 )
5	タナカ・キン (一問一答方式)	2. 児童研修館こどもの森について	(1) 児童研修館こどもの森について	<p>昨年11月23日（日）に開催されたイベント「障がいについて考えよう」に行った時のことである。入館者が多いのでびっくりしたが、入館者に対してスタッフが少なすぎるのが気になった。</p> <p>①現在のスタッフの人数と、これまでの年度別の人数を伺う。</p> <p>②2025年1月11日にリニューアルオープンしているが、以前と比べて強化した点があれば伺う。</p> <p>③リニューアルオープン後から今年の1月11日までの1年間の入館者数を伺う。</p> <p>④うち、市内・市外・県外それぞれの入館者数を伺う。</p> <p>⑤年間にどれ位イベントを行っているか伺う。</p> <p>⑥そのイベントの内容を伺う。</p> <p>⑦未就学児童・小学生・中学生・高校生らに対してのイベントの割合について伺う。</p> <p>⑧児童研修館と子育て支援センターとの違いについて伺う。</p> <p>⑨こども家庭庁が策定している児童館ガイドラインに沿って管理・運営しているのか伺う。</p>
		3. 道の駅SORA IRO国上の更なる発展について	(1) 集客について	<p>①今年1月18日（日）に道の駅SORA I RO国上の裏手で「第19回国上塞の神」が執り行われた。天候に恵まれたこともあり、主催者発表で午後3時の終了までに8,000人が来場したとのことである。昨年の5,000人から3,000人増えたとのこと、集客については大成功といえる。人出が多ければ、当然駐車スペースが足りなくなる。私も車を止める場所がなく、田んぼの側道に縦列駐車し、会場まで歩いた。来場者が多いのは結構だが、行政として考えた時、決してほめられたものではない。今後考えていく必要があると思うが伺う。</p> <p>②現在の道の駅の売り場スペースがあまりに狭い。イベント時には更に大混雑になる。売り場スペースの拡張も視野に入れて考えていく必要があると思うが伺う。</p> <p>③中学生や高校生の集客は考えたことはあるか伺う。</p>

発言 の 順序	発 言 す る 議 員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小 項 目)
6	齋藤 和也 (一問一 答方式)	1. 地域経済 の持続性 を高める T X (燕 トランス フォーメ ー シ ョ ン) の推 進につ いて	(1) 燕市D X 推進計画 の現在と 今後につ いて	①燕市では令和5年度に策定された「燕市D X推進計画」に基づき、デジタル市役所の実現に向けた取り組みを進めてきました。令和8年度の最終年度を見据えた現在の進捗状況と、運用の中で見えてきた課題について伺います。 ②本計画が終了する令和8年度以降も、単なるデジタル化に留まらず、既存の業務変革や市民の意識変容を継続させるための「次なるT X (燕トランスフォーメーション)」の展望について伺います。
		2. 市内事業 者のD X 推進の現 状と今後 について	(1) 市内事業 者のD X 推進の現 状と今後 について	①行政がD Xを推進するのと同様に、市内事業者においても生産性向上や技術高度化に向けたD X化への対応が不可欠となっている現状を踏まえ、現在の事業者のD X進捗状況の把握方法やサポート体制の現状について伺います。 ②市内事業者のD X化を加速させ、産業全体の持続可能性を高めるために、各事業者の規模や経営課題に応じたきめ細やかな「今後の支援のあり方」について、市としてどのように考えているのか伺います。
7	田澤 信行 (一問一 答方式)	1. 自治体D X推進事 業による 市民サー ビスの向 上と行政 業務の効 率化につ いて	(1) 自治体D X推進事 業の現状 と成果に ついて	①本市における自治体D X推進事業(学校教育関連事業を除く)の令和5年度からの年度別総額予算金額を伺います。また自主財源として概ね何パーセント程度の金額を負担しているのか伺います。 ②自治体D X推進事業の主要な事業について伺います。 ③既に導入済みのシステム(電子申請、オンライン窓口、R P A等)の主な実績について伺います。 ④通常業務における自治体D Xの推進が、業務時間の削減やコスト削減などに繋がった具体的な効果について伺います。
			(2) 行政手続 きのオン ライン化 と市民の 利便性向 上につ いて	①令和4年から開始された「コンビニ交付サービス」、いわゆる住民票や各種証明書のコンビニ発行について、コンビニでの活用件数と依然市役所窓口での発行件数の比率はどのように推移したのか伺います。また、市民サービス向上に貢献していると捉えているのか併せて伺います。
			(3) A I ・ R P A活用 による業 務の効率 化につ いて	①R P AやA Iの導入状況について、代表的な業務事例を伺います。 ②R P AやA Iを導入することで、業務効率化が人員削減または業務時間の短縮化に繋がったのか伺います。 ③今後自動化を進める分野について具体的な計画があれば伺います。

(次ページへ続く)

発言の順序	発言者	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具体的な内容 (小項目)
7	田澤 信行 (一問一答方式)	1. 自治体DX推進事業者による市民サービスの向上と行政業務の効率化について	(4) デジタル人材の確保・育成について	① デジタルスキル向上のための職員研修の実施状況について伺います。 ② デジタル専門の人材確保について現状を伺います。
			(5) 高齢者へのデジタル支援について	① DXは利便性を向上させる一方で、デジタルに不慣れた高齢者が取り残される懸念もあります。従ってスマホ教室や申請サポート窓口、地域包括支援センター等との連携が必要になってくると思うが、その点の取り組みについて伺います。
8	齋藤 信行 (一括質問一括回答方式)	1. すこやか赤ちゃんについて	(1) 誕生祝金について	① 誕生祝金については、平成18年度から平成22年度の4年間の申請期間で、誕生から高校までの間に第3子100万円、第4子150万円、第5子200万円を支給する事業で、申請者数は449人、内訳は第3子390人、第4子54人、第5子5人でした。 令和8年度の予定として、高校入学者64人、支給額2,680万円を終了の事業かと思えます。平成19年7月の申請者アンケート結果では、出産のきっかけになったと回答した割合は55.4%でした。またアンケートの中には、子育て支援としてこの制度の他に何を望まれますか、などありましたが、今後事業が終了するにあたり、アンケートなど行うのか伺います。
			(2) 誕生祝金終了後について	① 誕生祝金終了にあたり、その後はどうするのか。その当時700人近くの出生数から現在は400人近くの出生数になり、合計特殊出生率も1.2人台となっています。一人っ子が多く、第2子からの支援ができないものか伺います。
		2. てまりの湯について	(1) てまりの湯のボイラー及び燃料費について	① てまりの湯の温泉は沸かし湯であり、ボイラーの維持費や燃料費などを考えたら、新しい井戸を掘って温泉掛け流しなど、今後に備えて改修などしたほうがよいのではないかと伺います。
			(2) 道の駅周辺施設の今後について	① てまりの湯の周辺整備については、今後良寛史料館の建設などもあり、長期にわたるビジョンなど考える時ではないかと伺います。
		3. 分水地区の小学校について	(1) 分水小学校について	① 分水地区の小学校は、分水小学校、分水北小学校、島上小学校の3校が統合する予定ですが、今後の教育方針、分水小学校の建て替えなど方向性を伺います。
4. 人材育成について	(1) 燕の産業の後継者不足について	① 燕はものづくり産業など、商業・農業も含めて後継者不足と言われています。市はどう把握しどう対応・対策してきたのか、また教育委員会は教育にどう関わってきたのか伺います。		

発言 の 順序	発 言 す る 員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小項目)
9	土田 昇 (一問一 答方式)	1. 市の財政 問題につ いて	(1) 令和8年 の当初予 算の内容 について	①先日、当初予算の説明の中で示されましたポイント23ページの「市債残高」は、425億2,023万円の中で交付税措置のない市債の繰上償還などを行い、次代を担う子どもたちに過大な負担を残すことがないようにしていますが、特に繰上償還と基準財政収入額、実質収支比率、経常収支比率、公債費比率、起債制限比率等々について伺う。
		2. 農業問題 について	(1) 市の生産 目標につ いて	①農業問題については、昨年のコメ不足の反省もなく「増産方針」から「需要に応じた生産」に回帰してきたが、新潟県の昨年の生産実績は58万8,600トンと示されました。また、今年の実産目標は56万2,000トンと目標が示されました。市の作付状況について伺う。 ②現在の飛燕米の販売状況と今後の見通しについて伺う。5キロの販売価格等々についても伺う。 ③「新之助」と「新潟135号」の作付状況はどうなっているか伺う。
		3. 人口減少 対策につ いて	(1) 市の対策 について	①新潟県の転出超過が6,379人と報道されているが、市の状況については県内20市中、少ない方から2番目としている。今後は若者を引きつける働く場の確保などの対策が強く求められると思うが、大変な仕事だけでも対策があったら伺う。 ②令和5年度からの本市の人口減少数についても伺う。
		4. 原発問題 について	(1) 再稼働後 の取り組 みと事故 について	①基本的に「原発ゼロ」を求めて運動する方々も多数いると思うが、そのような運動に対しどのように感じているか、市長の認識を伺う。 ②現在の原発が非常に危険であることは、福島第一原発の事故で承知と思うが、私たち市民の生命、財産、安心、安全を考えたとき、県民との約束である7項目は実現できていないと思うが、市長の見解について伺う。 ③柏崎・刈羽の6号機が再稼働になっている。現在、使用済み核燃料の貯蔵率が93%と報道されているが、30キロ圏内の市長としてどのように認識しているか伺う。

発言 の 順序	発言 する 議員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小 項 目)
10	小林 由明 (一問一 答方式)	1. 持続可能 都市の実 現	(1) 居住・都 市機能誘 導区域内 の空き家 等未利用 不動産や 老朽建物 の対策に ついて	<p>①狭隘道路狭小宅地といった密集市街地特有の問題を抱え、さらに建蔽率一杯に建てられた家屋等が集中する市街地中心部は、地震や大雪など災害発生時には建物倒壊等により大きな被害を招く構造的問題があることから、老朽家屋や管理不全建物の増加は都市経営における最大のリスクの一つである。周辺住民の安全を脅かし地域価値を損ないかねない、市街地部の管理不全建物の現状（件数や危険度）について市の認識を伺いたい。</p> <p>②利便性を備えた都市の持続可能性を高めるために、すでにインフラの整備された市街地中心部への居住・都市機能の誘導が極めて重要であり、そのために、居住・都市機能誘導区域内の空き家等未利用不動産や老朽建物の適切な維持管理、活用・解体・耐震化が急務である。これら問題への新年度の覚悟や具体策を伺いたい。</p>
			(2) 質の高い 住民サー ビスと持 続可能な 都市経営 を支える 、行政リ ソースの 最適化に ついて	<p>①行政需要が高まる一方で職員確保もままならない時代であり、かつ限りある行政リソースを効果的に運用し住民福祉を増進するためにも、職員が本来業務に注力できる環境を構築する必要がある。職員が現地の点検確認や契約・支払いなどの煩雑な作業に、日々懸命に取り組んでいる現状があるが、これら業務の定量的定性的評価を行い、行政の本来業務とは言いにくい膨大な付随的作業を削減していく必要があるのではないか。</p> <p>②現場の負担を解消しリソースを最適化するため、すでに全国的に進んでいる包括施設管理の導入を検討すべきである。窓口の一元化と専門的な予防保全等を組み合わせる仕組みは、行政リソースの最適化につながり、政策立案等に専念できる体制への転換を可能にすると考えられている。あわせて三条市の事例のように、地元企業が主体的に関わることで地域経済の維持も期待される。まずは部局横断的な検討組織を立ち上げ、本市の実情に即した試行的な導入に着手されるべきでないか。</p>

(次ページへ続く)

発言 の 順序	発言 する 議員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小 項 目)
10	小林 由明 (一問一 答方式)	1. 持続可能 都市の実 現	(3) 地域生活 における 人口減高 齢化の深 刻な影響 について	<p>①人口減少と高齢化率の高まりによって、自治会運営など地域生活にどのような影響が現れているか。</p> <p>②市から自治会への依頼の中には、集金が必要な募金等の呼びかけもある。高齢化が加速度的に進むとともに認知症の高齢者世帯も増加し、全国的にはこうした集金などでのトラブルも生じている。市から自治会への依頼の見直しや、住民間トラブルを生じさせない啓発等の取り組みが必要ではないか。</p> <p>③昨年3年に一度の民生委員・児童委員の一斉改選があったが、民生委員・児童委員に欠員が生じている地域が複数ある。民生委員・児童委員確保の実情を伺いたい。</p> <p>④民生委員・児童委員が果たすべき役割や機能と、その必要性について伺いたい。また、その役割や機能の補完可能性、代替可能性はないか伺いたい。</p> <p>⑤民生委員・児童委員定数は県条例で定めるとされているが、それを定めるにあたってはあらかじめ区域を管轄する市町村長の意見を聴取することになっている。地域の実情を伝え、定数の適正と、民生委員・児童委員の役割や機能の補完や代替可能性について協議し、現代社会に即した制度運用に改めていく必要があるのではないか。</p>
11	長井 由喜雄 (一問一 答方式)	1. 保育園・ こども園 の定員に ついての 考えにつ いて	(1) 保育園・ こども園 の適正な 定員につ いて  (2) 定員変更 に伴う基 準財政需 要額につ いて	<p>①公立保育園・公立こども園をはじめ、私立園も含めた「利用定員」の設置と変更について市の考えをお聞きする。2024年3月議会において、現実とかけ離れた定員を定めた園があることを提起したが、市はその後どのような対応をされたか伺う。</p> <p>②国が示した保育士配置基準の変更に伴う実施状況についてはどうか伺う。</p> <p>①国は保育園運営に必要とする額を園の定員を基準として単価を示す「公定価格」を毎年示している。2004年に三位一体改革の名の下に公立保育園の運営費が「国庫負担金」から、使用に制限がない「地方交付税」という形に変えられ、地方自治体を苦しめる要因ともなっている。しかしながら、基準財政需要額の算定には、現実に即した保育実施に伴う需要額を示す必要があるのではないか。市はどのように考えるのか伺う。</p> <p>②「公定価格」は私立園には大きく運営に関わるものであるが、一定規模以上では額が固定されてしまう問題は小さくないと考える。市は保育を委託する立場からこの問題を考えて行く必要があるのではないか。市の考えを伺う。</p>

(次ページへ続く)

発言 の 順序	発 言 す る 議 員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小 項 目)
11	長井 由喜雄 (一問一 答方式)	2. こども誰 でも通園 制度の本 格実施に あたって	(1) こども誰 でも通園 制度(乳 児等通園 支 援 事 業)の4 月からの 本格実施 にあつて	<p>①市は12月からこども誰でも通園制度を公立2園で始めたが、保育士はどのように充てたか。またこれまでの実施の状況はどうか伺う。</p> <p>②国はこれまでの地方の声を受けていくつかの改定を行ってきて、基本分単価も1時間あたり0才児で1,700円、1・2歳児で1,400円示してきた。利用料も含めた金額で保育士人件費、受け入れに伴う運営費は賄えると考えるか伺う。</p> <p>③この制度は居住自治体で「認定」を受けると全国どこの自治体でも利用が可能とされている。この場合、加算分単価に示された「障害児」や「要支援家庭」をはじめとした情報はどのように共有されることになるのか伺う。また、個別の加算メニューについても伺っていく。</p> <p>④さらに加算分単価の中に「医療的ケア児加算」があるが、燕市においては体制と実施についてはどのように考えているか伺う。</p>
		3. こどもの 医療費助 成の拡充 について	(1)「一部負 担金」と 「入院時 食事療養 費助成」 の拡充を	<p>①こどもの医療費助成については、燕市において一部負担金が入院については全額補助、入院時の食事療養費については「減額認定証交付者のみ」助成を行っている。近年、この負担についての拡充が県内自治体においても進んできている。通院時の一部負担について、例えば就学前までの補助に拡充すること、また食事療養費については減額認定証交付者の条件を外し、対象者を「対象年齢」としているおおよそ高校卒業までの18才まで引き上げることを求めたい。佐野市長は所信表明においても「子育て支援のさらなる拡充」が「育てる燕市」の2本柱の一つに挙げており、子育てを進める上での燕市での住みやすさに大きく期待を寄せる市民は多いのではないかと伺う。</p>
12	渡邊 広宣 (一問一 答方式)	1. 新年度予 算につい て	(1) 新年度予 算につい て	<p>①新年度予算は、人口減少社会を前提に持続可能で活力あるまちづくりに取り組むとしているが、重要事業について伺う。</p> <p>②既存事業の拡充と新規事業展開が予算化されているが、昨年までの事業精査及び検証された予算か、また対症療法的になっていないか伺う。</p>

(次ページへ続く)

発言 の 順序	発 言 す る 員 議	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 ( 小 項 目 )
12	渡邊 広宣 (一問一 答方式)	2. 人口減少 社会につ いて	(1) 燕市の人 口減少の 認識につ いて	①燕市の人口減少要因をどう認識・分析しているか伺う。 ②直近5年の年代別(10代・20代・30代)の人口移動数をどう分析しているか伺う。 ③人口状況分析を踏まえ、今後取り組む課題について伺う。 ④つばめ移住・定住促進事業、移住家族支援事業等も重要だが、市内(市民)人口誘導政策の導入も必要と考えるが、所見を伺う。
			(2) 人口減少 下での広 域連携に ついて	①燕市建物系公共施設保有量適正化計画は、見直しを含めスピード感を持って取り組むべきだが、一方、不便性解消のための必要性和ソフト面での広域連携をどう推進するべきか伺う。
		3. 産業振興 について	(1) 産業振興 について	①市内企業の雇用数(従業員)の推移と業種別製造業等出荷額から、市内経済動向と今後のあるべき方向性及び対策を伺う。
			(2) 雇用対策 について	①若年男女(特に女性)から魅力ある産業育成と就業機会の多様性提供について伺う。
13	田中 淑子 (一問一 答方式)	1. デフ(耳 が聞こえ ない、又 聞こえづ らい人達 を表す英 語)につ いて	(1) デフの 方々の支 援につ いて	県外のコーヒーショップで、胸に「私は耳が聞こえません」という名札を付けた女性が働いていらっしゃいました。私は少し手話を知っていたので、話しかけてコミュニケーションをとることができました。英語も手話も相手の人と通じることができる手段だと思います。 ①本市でデフの方は何名くらいで、そのうち未成年と成人した人達の人数を伺う。 ②成人した人達の就業率はどのくらいで、市としてどのような支援をしているのか伺う。 ③吉田南小学校で年1回3年生を対象に、地域コーディネーターの方が点字や手話を広めているが、他の学校でも実施しているのか伺う。 ④子供の頃からデフの人達を身近に感じてもらうことは、とても良いことで必要だと思うが、市の考えを伺う。
		2. 今後の子 育て支援 について	(1) 今後の子 育て支援 について	①「子育てするなら燕市で」と、鈴木前市長が長きに渡りさまざまなことを実行されてこられました。佐野市長は今後どのような考えがあるのか伺う。

発言 の 順序	発言 する 議員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小 項 目)
14	岡山 秀義 (一問一 答方式)	1. 燕市観光 振興につ いて	(1) 燕市観光 戦略につ いて	<p>燕市は、世界に誇る金属加工技術を有する「ものづくりのまち」である。高度な技術と伝統文化が息づく地域であり、職人の手仕事をはじめ、高品質なものづくり文化はもちろん、地域の歴史や自然環境、イベント、さらには食文化など、多様な観光資源が魅力であり燕市の宝である。しかし、そのブランド力は国内外に浸透はしているが、観光という視点で見たとき、その強みが十分に経済効果へ結びついているとは言い難い現状であると考ええる。上越新幹線の停車駅である燕三条駅を有しながらも、通過型観光にとどまっている点は大きな課題である。市長が「稼ぐ燕市」を掲げるように、これからの観光戦略として「滞在型・高付加価値型・広域連携型」へ転換すべき時であると考え質問をする。</p> <p>①燕ブランド中核の燕市産業史料館や工場見学、職人体験を、単発の見学から戦略的な観光商品へ進化させるべきである。多言語対応を一元化したデジタルプラットフォームの構築、専門ガイド育成、プレミアム体験ツアーの造成を進めるべきと考える。さらに、海外バイヤーや富裕層旅行者向けに、限定工房見学や特別オーダー体験を組み込んだ高単価プログラムを開発することで、量より質を重視した観光消費拡大を図るべきと考えるが、見解を伺う。</p> <p>②テレビ番組で放送されていたように年間200万人もの観光客が燕市の洋食器を購入目的で来られる事業所もある。しかし、買い物をして移動、市外で宿泊して帰られるのが現状。とてももったいない。滞在型観光への転換をすべきである。今は日帰り客が中心であるが、観光消費額向上の鍵は宿泊にあると考える。空き家・古民家を活用した分散型宿泊施設の整備や、ものづくり体験と宿泊を組み合わせたパッケージ商品の造成を支援すべきである。また、夜間コンテンツの創出も不可欠です。ナイトマーケットやライトアップ事業の拡充、食と酒をテーマにしたイベント開催など、夜の滞在価値を高める施策が必要と考えるが、見解を伺う。</p> <p>③燕市には、良寛ゆかりの地である国上山や長善館をはじめ、豊かな自然と精神文化など豊富な資源がある。道の駅国上を中心に国上山周辺での文化体験型プログラムの整備や、近隣の弥彦山を含めた広域回遊ルートの造成を進めるべきである。点在する観光資源を線で結び、さらに面へと拡張する発想が求められると考えるが、見解を伺う。</p> <p style="text-align: right;">(次ページへ続く)</p>

発言 の 順序	発言 する 議員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小 項 目)
14	岡山 秀義 (一問一 答方式)	1. 燕市観光 振興につ いて	(1) 燕市観光 戦略につ いて	<p>④ものづくり文化は海外からの関心が高く、体験型観光との親和性も極めて高い分野である。多言語WEBサイトの強化、SNS動画発信、海外展示会への戦略的出展、キャッシュレスやWi-Fi環境の整備など、受入体制の強化を計画的にインバウンド戦略の本格展開を進めるべきである。特に、台湾・東南アジア市場など近距離圏への重点的プロモーションを強化すべきと考えるが、見解を伺う。</p> <p>⑤約100年続く「つばめ桜まつり分水おいらん道中」は燕市を代表する一大イベントである。大きな集客力を誇るが、観光戦略を考えると季節依存からの脱却が必要である。夏は道の駅国上でのアウトドア体験、秋は国上山紅葉と食のイベント、燕青空即売会、冬はものづくり体験強化月間など、四季ごとの戦略テーマを明確に設定し、年間を通じた安定的誘客、通年型観光への転換を図るべきと考えるが、見解を伺う。</p> <p>⑥受入環境の整備について公共交通や二次交通、また大型観光バス駐車場問題などをどのように対応していくのか、見解を伺う。</p> <p>⑦燕・弥彦広域観光連携会議を中心に、旅行会社や市内事業所、県央地域での広域連携強化が必要である。また早急に計画を立てDMO取得を目指すべきと考えるが、見解を伺う。</p> <p>⑧燕市は単なる製造のまちではなく、世界水準の技術、精神文化、自然環境を併せ持つ、潜在力の高い地域である。今後は「通過型」から「滞在型」へ、「量」から「質」へ、「点」から「面」へという転換を明確に掲げ、戦略的観光政策を推進すべきである。燕市合併20周年を機に、観光は単なる交流人口拡大策ではなく、地域ブランドの再構築と持続可能な地域経済の柱となる政策とすべきである。市としての明確なビジョンを示すべきと考えるが、市長の所見を伺う。</p>

発言の順序	発言者	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具体的な内容 (小項目)
15	稲村 隆行 (一問一答方式)	1. 公共インフラについて	(1) 消雪パイプの更新計画と維持管理について	①市が管理する消雪パイプの総延長は何k mあるか伺います。 ②年間何k mの更新を想定しているのか、今後の維持管理の計画を伺います。
			(2) 下水道の更新計画と維持管理について	①市内の下水道管路の総延長は何k mあるか伺います。 ②年間何k mの更新を想定しているのか、今後の維持管理の計画を伺います。
			(3) 橋梁の更新計画と維持管理について	①市が管理する橋梁の中で、更新対象の橋梁は何橋か伺います。 ②年間何橋の更新を想定しているか、今後の維持管理の計画を伺います。
			(4) 公共インフラの将来の維持管理の見通しについて	①市が管理するこれらの公共インフラについて、現在の更新計画及び予算規模で、将来にわたり安定的に維持していくことが可能であると認識しているか、市の見解を伺います。 ②予算編成において、これら公共インフラの維持管理についてどのような優先順位で取り組んでいくのか、市の見解を伺います。
		2. 保育について	(1) 適切な保育環境を維持するための体制について	①保育所保育指針に基づいた適切な保育が行われていることを、市はどのような方法で確認しているか伺います。 ②保護者から保育の内容について相談や不安の声が寄せられた場合、市はどのように事実関係を把握し、必要に応じて改善につなげているのか、その対応の流れについて伺います。 ③保育の質を維持・向上させるために、保育士への研修や指導、現場への支援などをどのように行っているのか、また今後どのように取り組んでいくのか伺います。 ④子どもたちが安心して過ごせる保育環境を維持していくために、現在の体制で十分に保育の質を担保できると認識しているのか、市の見解を伺います。

発言 の 順序	発 言 す る 員 議	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小項目)
16	宮路 敏裕 (一問一 答方式)	1. 学校給食 の無償化 について	(1) 学校給食 の無償化 について	<p>①子育て世帯の経済負担の軽減を目的に小学校給食費無償化の制度設計が国から出され、当市においても「学校給食費保護者負担の軽減」として新年度予算案として提案されている。給食は食教育の一環であり、全ての子どもの教育環境が確保される一端である。その上で、食物アレルギー児童への対応や不登校児童への配慮などの対応について伺う。</p> <p>②この間、食材費の高騰に対し公費負担により保護者負担を生じさせない措置であったが、新年度においても給食の質を落とさない取り組みや地産地消を取り入れていくことが大事であると考えているが、認識を伺う。</p> <p>③中学校の給食費無償化が取り残されたことは、子育て世帯にとって不公平感が募ることになる。これまで独自で中学校給食費無償化を実施し、新年度も何らかの形で実施する自治体があるが、当市においても、国待ちでなく子育て世帯にいつそう寄り添った取り組みを検討するよう求めるが、認識を伺う。</p>
		2. 個人の尊 厳を守る 終活支援 について	(1) 個人の尊 厳を守る 終活支援 について	<p>①国の「高齢社会白書」によれば、2024年の統計で65歳以上高齢者が率にして29%、その一人暮らしの方も増加しているという現状を踏まえ、住民ニーズに対応し、誰もが住みなれた地域で安心して暮らせるための支援整備が自治体に求められている。その上で、市として終活サポートの窓口や支援体制はどうか伺う。</p> <p>②燕市「大切な方への絆ノート」というエンディングノートを無料配布しているが、市民の反応など把握していることを伺う。</p>
17	山崎 光男 (一問一 答方式)	1. 燕市合併 20周年の 関連につ いて	(1) 節目を迎 えた出来 事や人物 について	<p>①1896年7月22日に、信濃川の堤防が決壊した未曾有の大水害、横田切れから今年で130年目になる。この歴史的事実を市内外の人々に紹介する取り組みが出来ないか伺う。</p> <p>②昨年生誕110年、来年没後30年を迎える亀倉雄策氏や画家の横山操氏について、市長は選挙公報で市所蔵の作品等の常設展示を政策に掲げていた。この政策の今後の展望について伺う。</p>
			(2) 20周年記 念事業に ついて	①三条市は今年1月に合併20周年記念事業として、バレーボールの元日本代表選手を招いたイベントを開催した。燕市においてもスポーツ・文化事業において、そのような人物やスペシャルゲストを招いた記念事業が行えないか伺う。
			(3) 燕三条合 併につい て	①来年創立30周年を迎える燕三条J Cは、県央中核市としての「燕三条市」実現に向けて、運動方針をHPで表明したり、I Cの名称変更に向けては署名を行うなど、機運の醸成に努め活動を継続している。合併20周年を迎えようとする今、新市長の燕三条合併に関する所見を伺う。

(次ページへ続く)

発言 の 順序	発 言 す る 議 員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 ( 小 項 目 )
17	山崎 光男 (一問一 答方式)	2. 市役所業 務の効率 化・省力 化につい て	(1) 燕市DX 推進計画 について	①令和5年3月に策定した燕市DX推進計画は、令和8年度が最終年となっている。6つの重点実施項目のうち、「1. 行政手続きオンライン化」「6. デジタル人材の育成」について、現在の進捗状況を伺う。
			(2) 生成AI を活用し た市政運 営につい て	①燕市DX推進計画の3、RPAやAIなどの新技術の導入に関して、近年人材不足や行政サービスの質向上などを背景に、AI導入に踏み切る自治体が急増している。昨年12月に総務省は「自治体におけるAI活用・導入ガイドブック〈導入手順編〉（第4版）」を公表した。多種多様な業務でのAI導入事例が掲載されているが、市は今後生成AIとどのように向き合っていく考えか、所見を伺う。
			(3) AI市長 の誕生に ついて	①全国の自治体では、AI市長が市長の目線で政策立案のアドバイスをしたり、イベントや行事にAI市長を代理出席させ、プレゼンを行ったりしている事例が見られる。本市もこのような活用を研究し、実践してみてもどうか、当局の考えを伺う。
		3. 地域おこ し協力隊 の伴走支 援につい て	(1) 隊員の募 集につい て	①1月31日～2月1日に開催された地域おこし協力隊全国サミットには、燕市もブースを出し隊員を募集していた。その前日には「にいがた行脚の会」も初めて燕市で行われたが、それらの成果について伺う。 ②採用後のミスマッチや早期退任を防ぐために、「おためし地域おこし協力隊」や「地域おこし協力隊インターン」の制度の利用を検討してはどうか伺う。 ③公益社団法人ふるさと回帰・移住交流推進機構は「地域おこし協力隊 活動領域マップ」を公表している。燕市の様々な課題解決や活性化のため、これまで採用してこなかった幅広い分野から隊員を募ってはどうか、所見を伺う。
			(2) 起業型地 域おこし 協力隊に ついて	①定住率を高め、任期終了後も燕市に住んでもらうために、給与を伴った起業準備が出来る「起業型地域おこし協力隊」制度をスタートしてはどうか、当局の考えを伺う。

(次ページへ続く)

発言 の 順序	発 言 す る 議 員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 ( 小 項 目 )
17	山崎 光男 (一問一 答方式)	4. 防災・減 災の最新 状況につ いて	(1) 指定緊急 避難場所 について	①昨年12月、内閣府の調査で、地震や津波などで一時的に避難する「指定緊急避難場所」の約6割で、携帯トイレや水などの備蓄が無いことが分かった。内閣府は自治体に備蓄の充実を促すとともに、今年1月、自治体向けの手引きを改定した。燕市における指定緊急避難場所の現状を伺う。
			(2) 燕市防災 計画につ いて	①気象庁は、令和8年5月下旬より、気象の警報などが大きく変わることを発表した。情報名に「レベル」が付記されたり、従来に「洪水警報」「洪水注意報」は廃止され、「特別警報」の新設など色々変わるため、防災計画等の点検や見直しを求めているが、行ってはどうか、当局の考えを伺う。